

令和5年度 第13回

日南市教育委員会

会議録

令和6年2月22日（木） 午後3時から
南郷ハートフルセンター生涯学習館 2階学習室

- 1 会議の名称 令和５年度教育委員会 第13回会議（定例）
- 2 会議日時 令和６年２月２２日（木）
午後３時から午後４時２５分まで
- 3 出欠確認
 - （１）出席委員 都甲政文、黒木由香、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - （２）事務局 学校教育課学校教育担当監
生涯学習課課長
学校教育課課長補佐兼教育係長
学校教育課管理係主査
- 4 場所 南郷ハートフルセンター生涯学習館 ２階学習室
- 5 傍聴者 ０名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和５年度第１３回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員５名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【藤岡担当監】
「事務局は、田中教育部長と上村学校教育課課長補佐が欠席です。」
- 8 活動報告
 - （１）教育長活動報告

【都甲教育長】
 - ・１月２６日、文化財消火訓練がございました。毎年この文化財防火デーっていうんですけど、この日に今年は飫肥豫章館の一番奥の御数寄屋っていうところがあるんですけど、そこから出火したということで見に行きました。職員の皆さんが、観光客を想定した方々

を避難誘導して駐車場に出てきて、駐車場のところから消防隊が来て消火活動をするということで、なんか、文化財は消火訓練も難しいみたいですね。壊しちゃいけないようにしなきゃいけない。1回なんか瓦が飛んだとかですよ、そういうのもあってそんな話をされていました。

- ・ 1月28日、旧黒荷田地区のですね樹木伐採説明会に来ました。ただなかなかですね理解をもらえませんが、明日また再度説明にいきます。

- ・ 1月29日、30日、新春子どもの声を聴く会で、残念ながらインフルエンザで欠席した2名おりましたので、日南学園と大堂津小に表彰状を渡しに行きました。日南学園の方は、ご両親が聞きに来ちゃってですね、そして大堂津小学校は何と体育館で発表してですね、欠席する方がなんか中身濃いなと思ってですね、そういう感じだったですね。

- ・ 1月31日、校長会で、よく言いますけど、改めて校長の重要な仕事ってのは人材育成であるってことを伝えました。先生達の資質を向上させることが、学校の力が高まっていくんだって話をしたところでした。

- ・ 2月2日、読書感想文感想画コンクールの表彰式で、合わせて300点近い応募があったんですけど、その中から38点を選んで表彰させていただきました。ちょっと今年はですね、ニチワさんに更に甘えまして、参加賞もいただけないかということで、参加賞で消しゴムをですね皆に配ることができました。

- ・ 2月3日、宮崎県の公民館の大会、県央ブロック大会がちょうどここであったんですけど、それに参加させていただきました。優良自治公民館の表彰で、今町公民館をはじめ市内7つの公民館が表彰されました。そしてこの後の事例発表で、仮屋講の河野透さんが事例発表されました。

- ・ 2月5日、県教委のあれなんですけど、学校における働き方改革推進協議会。県が発行する資料について、学校とかPTAとか中体連の代表とその中身について検討しました。保護者とか教職員に理解を周知していくためにどういう資料がいいのかっていうのをですね、意見を述べ合いました。

- ・ 2月6日、国際ソロプチミストっていう団体がですね、もう31回目ぐらいになるんですけど、図書の購入にして欲しいってことで3万円をいただきました。まなびピアとか、文庫がちゃん置いてありまして毎年絵本とかを変えております。

- ・ 2月8日、これ初期研修ですね。初任者の研修なんですけど、最後の研修でしたのでちょっと顔出させてもらって、1年間通してですね必ず皆さん成長していると、その成長を実感しながら次の年につなげて欲しいという話をさせていただきました。

- ・ 2月9日、この日は、令和6年度の県教育委員会の新規改善事業、新しい事業とかの説明がありました。今後これがこっちに降りてきたりとかするわけなんですけど、その説明でした。

- ・ 2月13日、寄附金活用事業の説明として、油津の石井商店という、ちょうど漁協のところ、あの方がですね、1,000万円を寄附していただきまして、子ども達のために使ってくれということで、そのお礼とどういうものに使うかっていうのをですね、ちょっと

説明に行きました。市内の全小中学生に対して、なかなか普段には聞けない講演を6年度と7年度でやりたいなと思っています。まずは6年度中学生全員1,000人ぐらいですけど、多目的の体育館に集めてですね、何かいい人がいないかなっていうふうに思っています。

・2月16日、宮崎市スペシャルサポートルーム。これは結局不登校の子が学校の中に1つまた教室があってっていうやつで、居場所を作ったことで宮崎市の大塚中に行きました。ちょうどその時は2名ぐらいしかいなかったんですけど、そこに行けば学校に登校してるってことになるので、やはりそこを選ぶ子も何人かいるってこと。宮崎市はですねやっぱり今フリースクール多いみたいですね、あっちに通う子は。宮崎市はやっぱり大きいので、全体で1,000人ぐらいいるらしいんですよ、不登校が。だからいろんなね、来年さ来年ぐらいに今度は学校も作るとか言ってますけど、参考にさせてもらいました。

・2月17日、講師のための講習会。よく出てます免許を持ってるけどまだそういう経験がないって方のためのやつを去年から続いて2回目だったんですけど、今年も10名参加してもらいました。去年は理論的なものが多かったんですけども、今年はICTの活用とか実践に即した講習をやらせてもらいました。

・2月19日、日南市の消防職員の意見発表会の審査に行ったんですけど、3名だったんですけどなかなか面白かったですね。やっぱりどういうふうに改善したらいいとかですね、消防車、救急車の出動が多いから、何とかしなくちゃいけないとか、あと火事の現場を今化学物質がものすごく多くて、自分の体守らないといけないとか。4月に県大会が日南であるんですよ。この3名中2名が代表で参加するということでした。

・同日、学校訪問、榎原小学校の5、6年生が木の枝とかを使ってですね、壁掛けの製作をしました。地域の方が5名ほど来られまして、非常に発想豊かに楽しく取り組んでおりました。NHKで多分流れたと思いますけど。

・2月20日、教頭会です。4月年度当初に出させてもらって、2回目だったんですけど、1年間頑張ってもらいましたねっていう話をした後に、結局、教頭先生割と保護者対応ですね頑張ってもらわなきゃいけないことがあるんですよ。そのことをちょっと話させてもらいました。例えば素直に話を聞くとか、言い訳をしないとかですね。それがちゃんとしないとおかしくなるよっていう話をさせてもらいました。

・同日、研究論文の表彰式と研究所の閉所式を行いました。研究所が研究成果の発表をしてくれた後に、研究論文の最優秀の方2名が自分の研究についてちょっとだけですけど発表してもらったんですけど、非常に中身の濃いものになりました。

・2月21日、昨日ですが、人事異動の事前説明がですね、教育事務所が来て話をしてくれました。大体これが最終的な案だということで持ってきたんですけど、これについてはまた正式なものは、3月14日の臨時のこの教育委員会でお知らせしたいと思います。

・同日夜、学校給食会の理事会。これ、総会があるんですけど、先々に向けての理事会だったんですけど、来年度予算、そして一番の話題は、昨日市長が発表したんですけど、給

食の公費負担についていろいろ出ました。そこら辺、もうどういう感じだとかってですね。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

昨日教育研究論文の表彰式参加させていただきまして、毎回素晴らしい発表でいつも参加させてもらってるんですけど、今回ちょっとお伺いしたかったのが、発表される方と研究される方っていうのは、これ先生方立候補制でされるんでしょうか。それとも何か当番制で決まってるものなのかなと思って、あんなたくさんの先生の中で発表されるのかどうやって選ばれてるのかなというのをちょっと教えて。

【都甲教育長】

研究所はですね、まず投げてやりませんかっていうふうに言うんですよ。何人か集まるんですよ。後は、もうちょっと欲しいなっていうのは、こちらからちょっと声かけて来ませんかっていうことで。

【別府委員】

あともう一つ、この発表していただいた以外の発表だとか事例とかっていうのもちょっと見せてもらいたいなというところがあるんですが、ああいうのはなんかホームページ上で出たりとかっていうのはあるんでしょうか。

【都甲教育長】

研究論文はどうまとめているの。

【藤岡担当監】

研究集録に出してますけど、研究集録っていう形で、紙で。

【別府委員】

ネット上で見れないんですね。いやちょっとせっかくなんですごい、多分発表できてない、発表されてない素晴らしい研究も多分あると思うんで、自分達もなんですけど一人でも多くの現場の先生達にまた見ていただけると、あ、これうちの学校でも使えるかもというようなヒント、そういったこともできるんじゃないかと思ってます。できれば今後その他の先生でも、ネット上で何かこう研究内容というのが見れるような環境が出来ればまたいいのかなとちょっと思ったところです。

【都甲教育長】

もちろん冊子では配りますけど、例えばデータとして各学校に流すことはできる。写真とかのことがあるので、ちょっと写真とかあるのであんまりこう公には難しいんです

けど、学校の中で使ってくださいという、おっしゃるようにやっぱそうですね。

【別府委員】

教育現場にすごく還元できるんじゃないかと思ったところでありまして、貴重な経験でした。

【佐藤委員】

1月の29日だったんですけど、教育委員の仕事というわけじゃないんですが、餌肥地区がですね、幼稚園保育園が5園ありまして、小学校と勉強会連絡会をしましょうというのがもう5年ぐらい、途中コロナもあって規模縮小もあったんですけど、その時久しぶりだったんですよ。いろいろ話をする中で、給食を食べないとか、もう幼稚園で食べてるけど小学校では食べないんですけどとか、そういう話があったんですが、会議もパーティーが立ってたんですよ。ひょっとして給食は黙食ですかって言ったら、黙食ですって。油津小に行きましたよね給食試食って。あのときはもうなんか対面で食べてるとかいうお話だったような気がしたんですが、学校によって違うんですかって言ったらやっぱ学校によって違います。黙食だったらそれは多分食欲はあんまり出ないんじゃないですかねって言ったところだったんですけど。

結構今、企業、研修でうちの幼稚園で使ったあれ、マズローの欲求5段階。よく聞きますよね。やっぱり一番上が仕事で言えば、アイデア出したりして意欲的にその仕事する自己実現欲求だと思うんですけど。そこが出るためにはやっぱり下から下からがずっと積み重ねないと駄目だと。食べることってのは一番下ですよ。生理的欲求なところなんで、その場でそんな話はしませんでしたけど、やっぱりなんかそういう食の環境をですね、幼稚園はもうぐちゃぐちゃ食べてますから、でもそんな感染症も全然広がらないんですよ。小学生中学生とはまた違うのかもしれないですけど。だからちょっとね、そこがショックでですね、まだ黙食なのかとかいうことで。

【都甲教育長】

それは1月の29日で、その頃はまだ黙食で行ってたんですね。

【佐藤委員】

そうなんですよ。やっぱ感染症が心配でっていう。

【都甲教育長】

やっぱりなかなかコロナとかもね、なくなっていくのもあって、本当学校によってどうしても今は差があるかもしれないですね。前みたいに全体でっていうのは、部屋の広さとか或いはぎちぎち38人の学級だったらなかなか厳しかったりですよ。ただ、おっしゃるようにやっぱりその生理的欲求、やっぱり給食は楽しく食べて欲しいですか

らね。

【佐藤委員】

それで食力が落ちてるみたいでって言われてもそりゃそうでしょで終わってしまいました。

【八木委員】

私がお手伝いしてる幼稚園も、子ども達給食あんなに野菜あるのに食べますね。あんまり残さないんですよね。不思議ですよね。

【佐藤委員】

もうあれでしょ、普通に対面。

【八木委員】

対面で食べるし、もう野菜とかもいっぱい入ってるけど食べますね。

【都甲教育長】

なかなか難しいところもあってですよ。保護者の中には非常にやっぱりね、ピリピリした人もあって、もうちょっとそういうのをやっても、まだ考えてないんですか、そんなまだ油断していいんですかっていうのがあるので、そういうのもあるのかもしれないです。例えば30人いたらなかなかみんなが同じとかないかもしれないですし。

【佐藤委員】

うちも100何名子どもがいて、一人だけちょっと感染症情報を流すんですよ。インフルエンザが出ましたとか、感染性胃腸炎が出ましたとかでも、一人か二人なんだけど、翌日は必ずといっていいほど休まれます。感染症対策って欠席理由は言うんですけど、そういう方もいらっしゃるからね。

【都甲教育長】

ちょっとまたですよ、そういうのは校長会とかで話題にします。私達もなかなか今そういう実態はもう学校に任せてるので、もう5類になったから掴めんところもあるから、またいろいろ確認をします。

【佐藤委員】

やっぱりそのリスクもあるけど、そこで失ってるものもたくさんあるじゃないかと思うんですよね。

で、この論文表彰式ですよ。

私も全部見てないので、出された部分がですねこの研究主題でいろいろ食のことがあったり働き方のことがあったり、もちろん重要なこともあったり、それから租税のことがあったりすごく幅広いですよ、されてるんですごいなと思うんですけど、やっぱ学級経営とかですね、その辺があったんでしょうかね、論文のなんかテーマとして他の方。

【都甲教育長】

どうやったか、他の学級経営とかあったとこ。

【藤岡担当監】

生徒指導ありましたが、生徒指導としてですね、特化して。

【佐藤委員】

もう不登校もすごく増えてるし、いじめも相変わらずですし、やっぱ日本でいう国が大体若者の死亡原因のトップが自殺ですもんね。なんかその辺考えると、やっぱりなんていうかそのクラスの居場所なんかいうのを、やっぱりこう考えなくてはいけないテーマの1つかなというのを思いまして、研究所の発表でも、一番学校の中で時間を使ってるのは授業だと。だからその授業の中で、有用感とかそういうのを感じたりとか、達成感を感じたりとかっていうのもすごく大事な視点だと思うんですけど、クラス経営とかですね、さっきのマズローで言うとやっぱり、まず安心してそこに入ると、家のイラストが書いてあってぼろい家だから安心じゃないとかそういうこともありますけど、やっぱり言葉かけとかですよ、やっぱ厳しい言葉かけられたりとか、友達から排除されるような言葉かけられると安心ではないんですよ。

今、企業向けの研修で、ここはすごく多くてですね、やっぱ心理的安全性、あなたの会社はどうですかね、若い人達がどんどん辞めるっていうけど、実はここはできてないんじゃないですか。で、仕事頑張れ頑張れってのは到底無理ですよって。学校もやっぱりこの心理的安全性とか、あとみんなと仲間に入るとか、それから褒めてもらえて、尊厳を大事にしてもらえとかあって初めて自分の夢に向かって頑張ろうということになるんで、この辺がクラス経営かなと思うんですよ。だから、何かそこもまあ先生方も日々されてると思うんですけどね。また研究をねしていただけるといいのかなとちょっと思ったことでした。

【八木委員】

先月はお休みしてすみませんでした。

2ヵ月もいいですかね、先月のちょっと活動を。

12月県の教育委員会の方それと全国の研究協議会ですね。もう大変勉強になりました。その中で、ちょっと衝撃的だったのが、文科省の人が、事務局と教育委員は一心同体ではないと言われました。だから切磋琢磨していろんな意見を言い合うっていうのが

大事っていうのはそうなんだなあと感じました。そして、市長から、何とか予算も獲得しなければいけないと、そういうことがすごい大事だからやってくださいっていうことも言われたんですけど、今まで私達ないので、そういうことも必要なのかなということも感じました。

私オンラインの方では、どこだったかすいませんちょっと資料持ってきてないんですけども、母親代表の人と働き方改革についての論議だったんですけど、ちょうどそのまとめ役の人がオンラインに入れずもう一生懸命何かやってたんですけど、まとめなかったんですけども、一人の方は中学校の先生の奥様で朝5時に家を出て、その日の授業の準備をして夜8時に帰ってくると。何が一番問題かということやっぱり教員のなり手がない。この前えびのに行った時にそういう話だったと聞いたんですけど、やっぱり日南市でもそこっていうのは大事なのかなと。教員の確保とかですね、そこが一番働き方改革で大事なのかなというのを感じました。

あと、教育論文行かせていただいたんですけど、吾田小学校の矢野教頭色んなマチコミとか予定表とか、どういうのがあったとか、グーグルフォームとかペーパーレス化と、効率良く学校経営することを言ってらっしゃったんですけど、ちょうど県内の教育委員の方で、宮崎市の教育委員の方が同じようなことをおっしゃられて、宮崎市はもう大変ペーパーレス化が進んでいて、例えば参観日とかでも全然アンケート取らなくてもピッと押すだけで全部把握できるというふうになってるんですけど、県内で何て言うのかなそろってない。で、先生達は県内あちこち行くんだけどそういうシステムっていうのが、県内で統一しなければいけないんじゃないかなと。ICT化もやっぱり宮崎市が一番進んでるという、そこを合わせたいということ言われたのでそこに繋がるのかなと思いました。

あと、食育の話なんですけど、宮田先生の素晴らしい話でやっぱりアンケート取られて、朝ごはん食べない人が2割とかね、主食のみだけでとか、ヨーグルトだけとかそういう子が多いとか食べ残しが66%とかちょっと衝撃的でしたね。体験活動によってそれが数値が上がったりっていう活動されてて、すごく素晴らしいなと思ったんですけども、そこでやっぱり予算の確保というのが、これを続けるためには予算がいるということで、そういうこともやっぱり私達考えながら活動続けていただけたらなと思いました。

あとはわけものの主張、選挙についての県大会と南那珂大会行ったんですけど、やっぱり子ども達高校生が主権者教育を私たちは受けてないので、政治についてわからないというのが毎年出るんですよ。やっぱそこをきちんと育てていかないと18歳になって選挙って言っても本当に困る。何をしたいかなってわからない子どもというのが多いのかなと、興味を持ってないです。選挙の参加率も低い投票率も低いので、その辺もすごい大事なのかなと思いました。

あと、県教委の人が何かきのくに子ども学園ですよ、あそこに視察に行かれたそうですね。だからああいうフリースクール的なちょっと模索っていうか今からの教育につい

てやっぱり、いろいろ県の方も模索してるんだなと。あそこ全寮制ですよ。夢見る小学校って映画があるんですけど、そこであったの私見たんですけど、そういうふうに県の方でもそういうところを視察に行く時代になってるのかなというのはすごく感じたので、うちもいろんなところに視察に行ったりですね、フリースクールなり、そういうこともしなければいけないのかなと思って、あと、やっぱり不登校のデジタル、ドリルご存じですかね、その導入とか、学校の中に複数の居場所を作るってことで解決できるとか、あと市の方で保護者グループに何ていうかな、それを乗り越えた地域の人を含めて市の教育センターが支援しているとかそういう活動とか載ってたので、多少なりともこれからの話も考えていった方がいいんじゃないかと思いました。

【黒木委員】

1月の27日の土曜日、県女子駅伝の開会式に出席しました。久々の開催ということで、県内から集まった女子の皆さんが、緊張した感じで多目的の武道館のところで座って、ちょっとした開会式だったんですけど、翌日も天気に恵まれて、皆さん日頃の練習の成果が十分に発揮できてたらいいなと思いながら見させていただいた開会式でした。また、来年も何もこのまま変わらなければ開催されると思うので、また沿道で応援してみたいなと思ったところです。

9 前回の議事録承認

第11回の議事録について了承

10 議事について

議事1 本年度の反省と次年度の研修計画について

(蛭原主査) (都甲教育長)	本年度の反省と次年度の研修計画について説明。 5年度についてはもう割と元の通り戻ってきたわけですけど、令和6年度が本来の姿になってきたと思うんですが、何かこう新しくですね取り組んだらどうかってのも、出させていただいて結構だと思います。皆さんの何ていうか、資質を上げるっていうかですよ、いろんなとこ、ことを見ていただいてやったらどうかなと思ったりですね。 個人的にこう考えているのは、ふれあいコミュニケーション意見交換なんか、ちょっと若手の先生達とも話がしてみたいなとかですよ。今のZ世代あたりとですね、Z世代の先生はどう考えてるのかなんとかですよ。多分彼らは教育委員の先生方に対しても、割と
---------------------------	--

フランクに来ると思うからですよ。それはそれで楽しいですけど、何かそういうのができないかなって思ったりですね、ぜひ何かお考えがあるんだったら、また教えていただければ教育計画に入れていきたいなと思いますのでよろしくお願いします。

議事 2 学校活性化について

(森補佐)	学校活性化について説明。
(八木委員)	問い合わせとか結構ありましたか。
(森補佐)	問い合わせ、担当がちょっと係が別で確認をしたんですけれども、やはり参加というのはあまりなかったということで聞いております。
(佐藤委員)	これなんか、酒谷は結構。
(都甲教育長)	酒谷はですね、うまく繋がってですよ。行った子が口コミでこう親御さんが繋がったとかですね。この前意見発表会で確か酒谷の代表で来た子は、よその学校から来た子ですよ。酒谷に来て自分の居場所ができたとかですね。そういう感じですね。
(佐藤委員)	うちも今年卒園生の一人がですね、もう大人数でもへっちゃらの子なんですけれども、酒谷に行きたいって。うまくやってますね。
(都甲教育長)	今行ってらっしゃる親御さんが割と活発な方もいらっしゃって、児童館を綺麗にしてですよ、クリスマスをしたとか新聞載ったじゃないですか。あれは、もう先生達は何もしなくていいって、その地域の方が、その保護者が児童館今もう誰も使ってないから、その方よそから来てね、やっぱり考え方が非常に学校自分達でっていう感じもありますよね。
(黒木委員)	これ見せ方から伝え方がすごく上手だなと。市内から酒谷に通わせてらっしゃる方もコミュニティーもすごい多分広い方なので、そこに魅力を見せ方とかは聞いた話で、すごく魅力を保護者としては感じるような伝え方をされてるなあというふうには思います。
(都甲教育長)	発信の仕方も1つなのかなと。こういう市報とかではなく、その保護者の声とか、自分の声とかいうのを聞くとやっぱりまたちょっと動かされるものがあるのかなと思いながら。
(佐藤委員)	餅つき大会があってですね。じいちゃんばあちゃんもたくさん来て、それに結構よく来て体験で、それで来ようかなっていう子も結構いる。
(佐藤委員)	餅つきは今なかなかできないからですね。

(都甲教育長)	酒谷はうまく行ってる方ですよそういう意味じゃ。
(別府委員)	やっぱ学力的にもあれなんでしょうかね。マンツーマンのところだから成績は伸びやすいではあるんですかね。
(都甲教育長)	結構手はかけますよね。以前の酒谷は逆に少なすぎてその切磋琢磨がなかったわけですよ。ところが今度入ってきたので同じ学年の子が。入ってきてちょうどいい感じで。
(別府委員)	少なすぎてもというのは。
(都甲教育長)	そうなんですよ。 ですから、例えば大窪だったら人数でいったら職員なんか一人ぐらいしか配置できなくて、その先生が3年間ずっと持ち上がったリなんかするわけですね。なかなか小学校で同じ学年を3年間というのは考えられないんですね。中学校はあるかもしれないですよ。だからある程度いっぱい人が必要だということですよね。

議事3 3月議会上程議案等

(令和5年度3月補正予算・令和6年度当初予算)について

(蛭原主査)	3月議会上程議案等(令和5年度3月補正予算・令和6年度当初予算)について説明(学校教育課)
(長本課長)	〃 (生涯学習課)
(別府委員)	タブレットのAI導入というやつなんですけど、多分あれロイロノートとは違って新たなドリルを入れるという形だと思うんですけど、これはオフラインでも使えるやつなんですか。それとも何かQubena的なやつを入れる感じなんでしょうか。
(藤岡担当監)	オフラインで使えるやつでQubenaのようなAI型ではないです。オフラインで使えるAI型ドリルということになってます。
(別府委員)	それを全部の生徒さんのタブレットに入れて使えるということなんです。
(都甲教育長)	Wi-Fiが関係ないので持ち帰りが割と簡単になる。今までそれがずっと引っかかってたんですよ。
(佐藤委員)	Wi-Fi環境なくてAIっていう。
(都甲教育長)	そういうのもあるみたいで。
(佐藤委員)	学校では繋がるのでってことになりますか。
(別府委員)	インストールしてしますという感じ。
(佐藤委員)	ちゃんと学校でアップデートする感じでしょうね。
(都甲教育長)	そうなりますね。もちろん家にWi-Fiがある子は家でしっかりと

	きるんですけど。
(別府委員)	でも持ち帰りを前提とした形になる。
(都甲教育長)	持ち帰りがしやすくなったんですね。みんなこの同じ条件になったので。
(八木委員)	タブレット導入して何年目ですかね。
(都甲教育長)	3年ですね。
(佐藤委員)	これは年齢制限とかそういうのなし、もう小学校1年生からになるわけですか。
(森補佐)	一応小学校1年生から中学校3年生までに合わせた形ですね、AIアプリの方は考えてます。
(佐藤委員)	いや、健康面ですよ。この前も幼稚園の方には小児科医会の方からですね、0、1、2歳はもうテレビも見せるなど、4歳5歳も一日見ても2時間、電子メディアはもう、テレビにしろタブレットスマホやっぱアルコールと一緒にというような解釈で、大人はいいよと、もうちゃんと制限する判断力とか自制心もあるし、目もちゃんと視力出てるし、頭もちゃんと考える頭脳が育ってると。 だからアルコールみたいに20歳以上はOK、WHOもそういったメディア依存症ゲーム依存症という病気があるぐらいのやつで、麻薬とかですよ、たばこアルコールそれと同じぐらいの依存症依存性があるものだから、年齢とか与え方十分気を付けないといけませんよっていうのが来ててですよ。いや大丈夫なんだろうかと、そういうのばっかり見てて思ってしまうけど、今の若いお父さんお母さん方は生まれたそれこそZ世代だからですよ。当たり前にならなくて、悪いものとかですよ、そういう影響はどうなんだろうかって疑いもなく見せてるんですよ。赤ちゃんなんかこんな近いところで何かこうやってですよ。それをすごく小児科医会は警鐘鳴らしてるっていうところなので、学校で個に応じたいろんな問題学習ができるとすごくいいところで、無しっていうことはもうあり得ないと思うんですけど、気をつけなくちゃいけないところとか環境とかですよ。だからもう家に帰っても、タブレットやらでどんどん見るのは勉強になるんだ、で、どっぷり使う、浸かるともう依存症まっしぐらですよ。むしろメディア接触時間が少ない子の方が後々は伸びるっていう何かデータもあるやに聞いてですね、そこ辺のバランスというか、そこら辺をどんなふうにとっていったらいいのかわかってのは課題かなと。
(都甲教育長)	3年経つんですけど。

	あんまり学校からいつアプリ入れるのかってのはこなかったんですよ、聞こえては。私としては待たせたなあって感じがするんですけど、Wi-Fi があるから、その環境が整ってないからって。おっしゃるように非常に危ない面っていうか、気をつけなきゃ意見もたくさんあるので、やっぱりこの導入をするときにはしっかり校長あたりには話をして、またそれを学校でびしゃっと降ろして、あくまでタブレットは手段、教具なので、やっぱり私は持ち帰りがあるかもしれないけど常に持ち帰りじゃないと思うんですよ。やっぱり学校でしっかり使うと。そのメリハリをつける意味でもいいんじゃないかと思うんですよ。もう何て言うか、もうタブレットに踊らされないようにしなきゃいけないですよ。
(佐藤委員)	そのフィルタリングで有害サイトとかっていうのもあるんですけど、やっぱり子どもって2年生ぐらいでやっと視力が大人並みになるのに、その前で見ちゃうと本当利き目しか育たないで、片方のみ視力は上がらないとかですね、そういう健康面のそもそも育ちを阻害する部分もいろいろデータが出てきてるってことなんで、そこ等なんかそういうのもあってもいいんじゃないかなと。そこをしっかりと検討してですね、入れていただけるといいかなと。
(都甲教育長)	そうですね、やっぱりそこら辺は。森補佐、どういう感じで来てこのアプリって見たことある。
(森補佐)	何社か見せてもらってますけれども、学校で Wi-Fi 環境家であるなしじゃなくて、学校でまず問題をダウンロードする、持ち帰ってその問題を家で解いて、自宅でも繋がればそこからまた先に進められますし、そこで学校でも Wi-Fi 環境が繋がれば、そこでまた AI が判断してそこでどんどん問題を追加していく形のもののなので、一応持ち帰りの段階でフィルタリングソフトであったりそういった全て制限をかけられるような形ではやっていこうかなというふうには考えてますので、できるだけその学習の方で特化したような形のタブレットというところですね、時間的にもあんまり問題を解く子によってはどんどん先に進んでいるかもしれませんが、そこをどういうふうにやっていくかというのはまた、その入れる AI ドリルによってまたちょっとあるのかなというにはまた、今考えてるところではあります。
(八木委員)	そうですね。デジタルでやってる子どもいますよね。もう塾に通うよりか、もうオンラインの塾に行ってる子も結構。
(佐藤委員)	中学生はいいと思うんですよ。小学校低学年はちょっと心配だ

	なっているのはあります。依存性が高いことで止められなく落ち着かないですね。
(都甲教育長)	麻薬みたいになってますよね。
(佐藤委員)	若干私はそういうところありますよね。スマホ忘れたらもう大慌てですよ。
(黒木委員)	でも、何かやっぱり幼稚園で、子どもが幼稚園でもそういう教育をしてくださってるみたいで、YouTube を見すぎると目がチカチカして目が見えなくなるとか、その子どもがやっぱり言うんです。だからテレビは見ないとか自分から YouTube ともうリモコンについてるの見てこれは駄目って見すぎたら駄目っていうのを、やっぱりそのまだ、吸収できるっていうか素直にその言葉を受け止められる、その本当に幼児期から幼稚園の方で指導して下さって、保護者もそこをちゃんと理解できてると、また1年生2年生になったときのその持ち帰ったときに自分でコントロールできる力が、ちっちゃいときから植え付けられるといいのかなっていうふうにやっぱり先生を信じてる素直なその純粋な子、幼児期の教育もやっぱりもう AI に関してはもうね必要なのかなと思います。やっぱり幼稚園と幼保小の連携の課題の1つじゃないかなっていうところを。
(八木委員)	リテラシー教育が必要ですね。なんか福岡の小学6年生の女の子がもうみんなそのフィルター外せると履歴も消せる、だからそれゲームをしてみんなしてるって、わたしはしないけどって言ってましたけど、今の子ども達何でもできるし。
(都甲教育長)	どこかのところ担任のアカウントで入ってやるとかですよ。いじめがあったりとか他人のアカウントに入ってその人を名乗って何かやるとかね。
(佐藤委員)	飢肥地区の子ども園幼稚園保育園5園ではですね、来年度の活動テーマに防災かこのメディアの付き合い方なんかしようねって。結局飢肥小の1年生の7割以上がですよ、その5園から行くからですよ。かなり小学校とも深い繋がりができるよねということで、うちも2月の参観日はそのメディアの付き合い方の講演会を保護者に聞いてもらったんですけど、でもやっぱり Z 世代ですよ、差別するわけじゃないけどお父さんお母さん方ってのは本当当たり前のようにそこにあったからやっぱりなかなか感じてですね。危機感が。
(都甲教育長)	便利じゃないこれはって、そっちの方が先に行っちゃうんですよね。
(佐藤委員)	アルコールと一緒にですよ、飲んじゃいけないということではな

	い。メディアもすぐ見ちゃいけないということではない。ただ、年齢を考えましょうよっていう、もうそこを一生懸命言ったところでしたけど。
(都甲教育長)	正直中高生になってからいろんなことが起こってきて、健康以外でもですね、ちゃんとリテラシーとか持ってないと。結局保護者に返ってくるんですよね。本人がやっぱりそうやって傷ついたり。
(佐藤委員)	子ども達が怖いものっていうのが全くないです。で当たり前にお父さんお母さんが目の前でやってるからですよ。そんな恐ろしいものという認識は全くないですね。だから怖い。
(黒木委員)	あんまり公にこう事件っていうか問題が公になってなかったりするから、前辻さんって大阪で活動されてる方が講演に来てくださって、その方の講演は多分聞いた保護者とかもすごい衝撃をやっぱり受けて、こんな危険性があるんだってすごい赤裸々にいろんな問題とか教えてくださった方で、定期的に何かしら情報が入ってくる環境っていうのはあるといいのかな。 やっぱりその若い世代の親御さんが当たり前に使ってきたものの中に、多分その方達ってそういう教育というか危険性を知らずに一緒に出た時期と同時に便利なツールとして使われてきてるので、若い先生達も学校訪問のときとか行くとすごい上手に使われてるなと思ったんです。理科の先生がタブレットの研修ね、ああこんな使い方もあるんだと思いながら見たこともあったので、そういう危ない危険だっていうところの情報が少しでも伝わるといいのかなっていうふうに今感じますね。 最初に言われてから 20 年経つんですけど、うちの娘が小学校の時にそういう、清川さんですよ、初めて子どもとメディアについて本とかで。あの人呼んで日南でもやってたんですけど、もうあれから 20 年ですね。
(都甲教育長)	今の予算の方で何か他にありますか。
(黒木委員)	学校とは関係ないけど、鵜戸地区の予算についてのところなんですけど、鵜戸神宮内の駐車場の予算っていうの、駐車場の管理っていうのは、あれは神宮さんがされるんですか、それとも市の方が管理されてるんですか。 上の大型バスとかが止まるところの駐車場なんですけど、全然関係ないんですけど私はその職場でいつも気になるのが、上にバスでお見えになった観光客の方が、ものすごい大きなスーツケースをあの階段を抱えて降りてくるんですよ。で、そのまままたご本殿の方

	に行かないといけないから、お見かけしたらお預かりしますよってお声掛けはするんだけど、その上にやっぱりコインロッカーとか置けないのかなって思って、いつももうすごい移動されるから、これ持ってきてきたんだって女性の方から、海外の方とかもちろん日本で国内旅行されてる方もいらっしゃるんだけど、何かこう総合案内所みたいなのが上にあれば一番いいのかもしれないんで、いろんな質問されるので。だけど結局そんなに言うほど、その総合案内所置くほどではないにしても何かこうコインロッカー的なものとかあると大型の、ちょっと親切なのかなって気はして。雨の日とかもすごく雨が降ると抱えてとか。
(蛭原主査)	以前は鶴屋さんがありましたよね。もう辞められてしまってあの辺が全くなくなってしまった。
(都甲教育長)	バスが止まって階段上がったところ。
(黒木委員)	上からお土産屋さんがあったんだけど、ご年配で、ちょっとね、もうできないということで私もよくごみを拾ったりとか見て回るんですよ。やっぱりその辺の草の管理とかも全然できないから、近所の方っていうか地区の方がされることはされるけど、やっぱり高齢化が進んでてしんどいよねっていう話を皆さんされて、途中途中にごみ箱があるわけじゃないので、ごみ箱置けば多分そのごみ箱の管理とかも必要になってくるから、今まではそういう商店の方達がやられてたんだろうけど、どんどんあそこは高齢化が進んでるので周りには道がちょっと急だったり足元が悪かったりするところが多いので、その辺こういったね名勝にされてるということであったらもう少しちょっと。
(都甲教育長)	ちょっと鶴戸神宮の案件はまた全然関係ないところはちょっとまた尋ねたらね。
(佐藤委員)	よろしいですか。予算こういう形で行かせていただいて。 ざっくり、子ども関係の予算というのは割合的には昨年度と比べて。
(都甲教育長)	森補佐、子ども関係の予算というのは割ともらえた方。学校教育として教育、生涯学習も合わせて。
(森補佐)	教育委員会としては、要望の分として大分つけていただいたかなって。
(佐藤委員)	えびのはそこにお金かけたりというのは見てきたから。 記者会見で、学校でだけじゃなくて子育て支援含めて1.5倍って、なんか去年に比べて1.5倍って言わなかった、市長からね。

	今回は本当給食がやっぱり市長の大英断で。毎年１億５千万なので。今までずっと議会で質問があってもなかなか難しいって言ってきたんですけど、とうとう市長がやっぱり。その中で、昨日青森県がね、県全体でやりますって話になって。
(八木委員)	その食材の買い付けとかどこからでしょうね。
(都甲教育長)	今度は関係の業者がありますので、実際はもう給食センターずっとやってたので、そこら辺はあんまり変わらないんですよ。やり方としては。
(別府委員)	県全体でやるってことは県の予算から出るということになると。
(都甲教育長)	青森はそうですね。
(別府委員)	宮崎県も県がやりますって言ったら県が出してくれる。出してくれればいいですね。
(都甲教育長)	宮崎は昨日の記者会見で言ったんですけど、26市町村の中で日南が8番目なんですよ。9つ市があって、えびのだけなんですよ。9つの市の中じゃ日南2番目なんです。
(佐藤委員)	3年後に県がやってくれるといいですね。日南市は先駆けてやってすごいねって。
(別府委員)	これね、子育てするなら日南市って流れてくれればいいかな。
(都甲教育長)	それが今都城市ですもんね。いろんな面でお金を出しますよ。
(佐藤委員)	誰でもですよ。人口が少ないもの同士で取り合ってるような感じですね。取ってくるなら東京から来た人にはドーンとかですよ。大阪とか福岡とかそういうところから来る人にしっかりそう、三股町とか気の毒ですね、なんかすぐ隣から取られてるんですよ。少ないもの同士で取り合ってどうするんですかって気もするんですけど。
(都甲教育長)	私がこの職についてから、いろいろこう要求する中で割とつけてくれるっていうか、そういう意味ではもうちょっと大胆に切り込んでもいいのかなっていう気もするんですけどね。ある意味ちょっと駄目元みたいな感じもあって。
(黒木委員)	今移住をすごい日南に考えてらっしゃる方って多く感じるので、その中で子育てが手厚いっていうのはすごい大きな決め手になると思うですよ。これだけ病院の数なくなって、産婦人科が少ないところに赤ちゃんを産むのにやっぱり考えると思うんですよ。移住してくる方っていうのは。やっぱりその市が潤う1つの大事な財産としてよそから人を呼ぶとかそういうところでももうここにやっぱり力とか予算もかけて欲しいなっていうふうには本当に思います。
(佐藤委員)	人がいなくなったらお終いですもんね。

(都甲教育長)	出生数が令和 10 年は 200 数人。400 人いたのに 200 数名、これ小学校で割ったら 15 校なので 20 人だと。
(八木委員)	10 年先が不安ですよ。ここの給付が関係ないかもしれないんですけど、幼稚園は給食大変です。もう持ってくるとこ少なくて、特にアレルギー食とか買いに行ったりとかしないと、運ぶところはないんですよ。で、宮崎市とか都城市はちゃんと市の方で、ちゃんと 1 カ月のメニューを考えてっていう、そういう研修会とかもしてるんですよ。それもちょうと課が違うと思うんですけども、日南もそういうことやっていくと、小さいうちから栄養のバランスが、どこの幼稚園保育所とか選んでもちゃんと平等に行くんじゃないかなと思うんですけども、もう大分前からですね、夜担当で作り方をやったりとか、大変ですよ。
(佐藤委員)	ここは関係ないかもしれないんですけど、他の市町村は結構子ども課で、例えばその病気で病院受診するときの登園許可証とかですよ、薬剤の指示書とかですよ、もうそろえてるんですよ。市町村単位でここはバラバラで、保護者の方がうちの持って行ったら、お医者さんによってはもうこれは書きづらいからこっちの方がいいよとか、保護者の方それで不信になるわけですよ。だから子ども課にもお願いをしてるんですけど、その辺からねそろえて、給食もそうだし、そういうのもそろえてくれる人がメニューを安心して子供を預けられる。
(八木委員)	そこから連携してね、無償化にはなったんですけど幼稚園、保育所大変だと思います。
(都甲教育長)	だからちょっと希望的観測私が言うのはちょっとおかしいんですけど、1 つ公費負担になるので、次はその幼稚園とかをなにかできないかなって話。そういうお金じゃなくてバックアップみたいな形。
(八木委員)	でもお弁当ただ買って届けるだけとかそういうところもあるから。
(佐藤委員)	食材の仕入れも市内の幼稚園保育園がまとめて、地元の農家さんに発注するとかですよ。そうすると日南市の農家さんも地産地消で売りにできるし、幼稚園と農家さんも、もう間違いなく、まとまった数の注文が来ればですよ、頑張って土地をパチンコ屋に売らずに自分とこで米作ろうかなってなってくれるんじゃないかと。

1 1 その他

(1) 3 月行事予定について

(2) 教育委員会会議（臨時）

- ① 日時 令和6年3月14日（木）午後4時30分から
- ② 場所 教育委員会応接室（ふれあい健やかセンター3階）

(3) 第15回 教育委員会会議（定例）

- ① 日時 令和6年3月21日（木）午後3時から
- ② 場所 市役所別館2階会議室（会議室6）

12 閉会